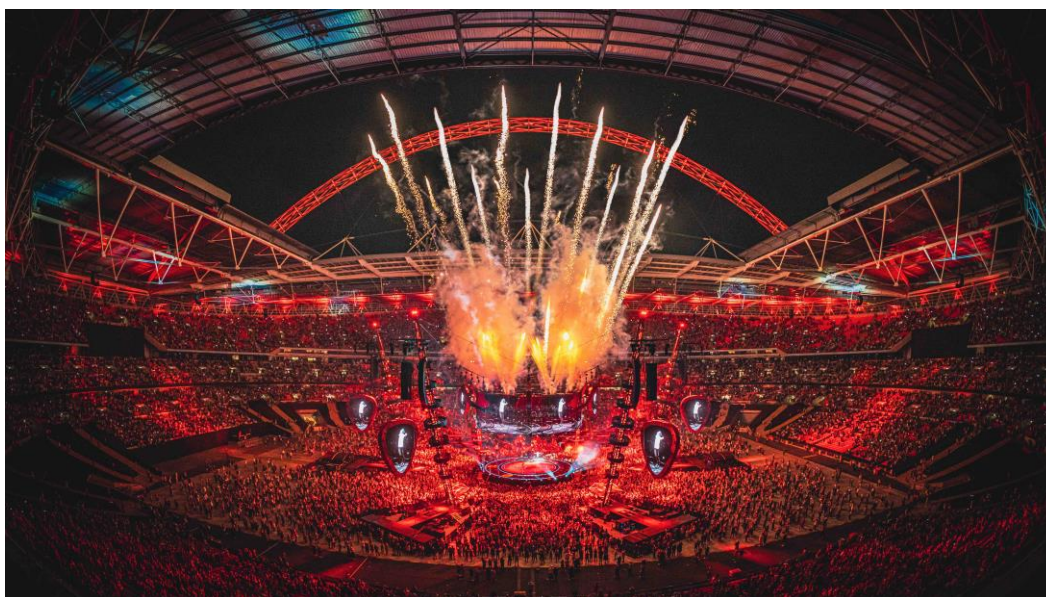




撮影：Cris Matthews

Sennheiser Digital 6000、エド・シーランのツアーで活躍

Sennheiser のサウンドクオリティ、堅牢性、そして他の追随を許さないサポートが、世界的トップアーティストの最新ツアーで真価を発揮

ヴェーデマルク、2022 年 8 月 2 日－エド・シーランがキャリアをスタートさせた当初より、Sennheiser は彼が長年にわたってタッグを組んでいる制作会社の Major Tom と協働し、ツアー機材およびサポートを提供してきました。たとえば近年は、フラッグシップ製品である Digital 9000 システムを提供していました。しかし今回のツアーでは、世界最大級のホール（ロンドンのウェンブリースタジアム、パリのスタッド・ド・フランス、ヘルシンキのオリンピック・スタジアム、ニュージーランドのエデン・パーク、シドニーのアコー・スタジアムなど）が開催地となり、また、従来のワンマンライブから飛躍的な変化を遂げるということもあって、機材も Digital 6000 へと変更しています。

本ツアーで RF エンジニアを務める Dave White 氏は次のように語っています。「Digital 6000 は、従来の Sennheiser と同じ卓越した音響を、さらなる柔軟性と共に提供してくれます。9000 シリーズも素晴らしいシステムですが、バンドやゲストミュージシャンと一緒に大掛かりなステージに何晩も立つような場合は、今まで以上の柔軟性が必要になります。6000 システム、Sennheiser の Wireless Systems Manager アプリ、そしてより大きな帯域幅を組み合わせることで、私たちが求める柔軟性を実現しました」



Digital 6000 シリーズトランスミッターには、エドのボーカルにマッチする単一指向性の Sennheiser MM 435 を選択。なおループボーカル用には、タイトな指向性を気に入ってエドが長年愛用している 945 カプセルを使用しています。「今回のように PA が多く、かぶりの回避が重要になるツアーには、435 はぴったりの選択肢です。エドはマイクに近づいて歌うほうですが、435 だとダイナミックに使いこなせますし、他のカプセルよりも周波数レンジや指向性に優れているという利点もあります」（White 氏）



エド・シーランは「マスマティクス・ツアー」で Digital 6000 ハンドヘルドマイク + MM 435 カプセルを使用

撮影：Zak Walters

ツアーでは、Digital 6000 の 16 チャンネルでエドのギター（5 本）、メインボーカルマイク 3 本（1 本がメインで 2 本はスペア）、ループボーカルマイク 3 本（2 本がメインで 1 本はスペア）に対応。さらに Sennheiser 2050 IEM の 16 チャンネルで PA の前にアイランド形式で並ぶエドとバンド（ドラム、ベース、ギター 2 人、キーボード）に対応し、Sennheiser のダイナミックマイク数本も用います。

Digital 6000 レシーバーを操作する RF エンジニアの Dave White 氏

撮影：Zak Walters





「ゲストボーカルやゲストミュージシャン用のスペアマイクを常に用意しています。このツアーでは何が起こるかまったくわからないので（笑）。たとえば最近、たった1曲のためにフィドル奏者が参加しましたし、スノウ・パトロールのギャリー・ライトボディもベルファストでの1夜限りのステージに駆けつけてくれました」（White 氏）

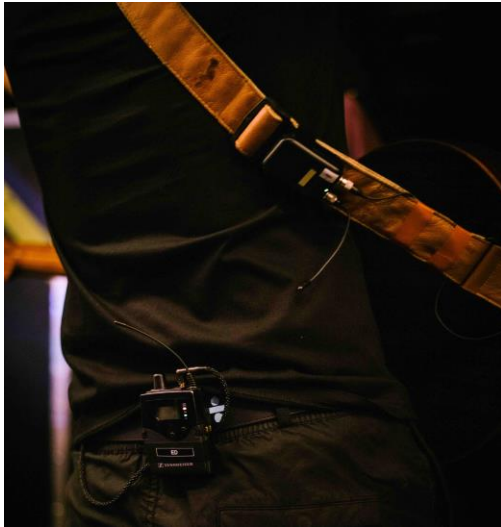
ツアーでは世界初の試みとなる Sennheiser システムと Meyer Sound Panther PA の組み合わせに DiGiCo Quantum 7 をミキシングコンソールとして採用し、エドのプロダクションマネージャーの Chris Marsh 氏が FOH とモニターの操作を担当しています。

FOH とモニターを操作
する Chris Marsh 氏

撮影：Ralph Larmann



White 氏が Sennheiser 製品を長年にわたり愛用している理由はその堅牢さと安定感ですが、Digital 6000 はワイドバンド RF スキャナーとしても非常に有能で、外部スキャナーを別途用意する必要がない点も評価されています。

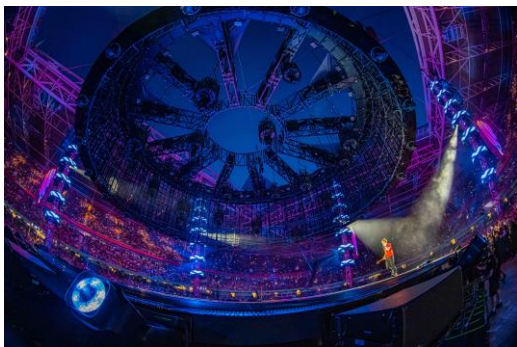


ギターストラップに SK 6212 ミニトランスミッターを装着

撮影：Zak Walters

「Sennheiser はサポート体制も素晴らしく、今回のツアーでもとても助かっています。ツアー全体を完璧にカバーできるよう、ステージと通路にアンテナを設置し、スプリッターとコンバイナーを使った複雑なシステムを組んでいます。Jonas Naesby、Marcus Blight、Volker Schmitt の3氏をはじめとした Sennheiser のチームがダブリンでのツアー開幕時から参加し、システムが正しく動作するようサポートしてくれているんです。チームから多くのことを学んでいますよ。リレーションシップマネジメントチームの Peter Craig、長年サポートを担当してくれている Pierre Morant の2氏にも心から感謝しています」（White 氏）

「Sennheiser はあらゆる領域で成功を収めてきました。私たちが彼らのマイクや IEM を長く使い続けているゆえんです。問題解決のアプローチが非常にロジカルで、製品は安定感と信頼性に優れ、音も素晴らしい。まさに、私たちが必要としているものです」



撮影：Ralph Larmann

（以上）



本プレスリリース掲載の高解像度写真は[こちら](#)でダウンロードしていただけます。

Sennheiser ブランドについて

Sennheiser は、まごうかたなきオーディオメーカーです。違いを生むオーディオソリューションを生み出すことに情熱のすべてを注いでいます。カスタマーのためにオーディオの未来をかたちづくり、独自のサウンド体験を生み出す—これこそが、Sennheiser ブランドが 75 年以上もの長きにわたり目指してきたゴールです。現在、マイクロフォン、ミーティングソリューション、配信技術、モニタリングシステムといったプロフェッショナルオーディオ事業は Sennheiser electronic GmbH & Co. KG が、ヘッドフォン、サウンドバー、音声強調デバイスといったコンシューマー事業は Sennheiser のライセンスのもと Sonova Holding AG が、それぞれ展開しています。詳細はウェブサイトをご覧ください：

www.sennheiser.com

www.sennheiser-hearing.com

当プレスリリースに関するお問い合わせ

ゼンハイザージャパン株式会社

永富

teruishi.nagatomi@sennheiser.com

+81 364068911

株式会社ブレインズ・カンパニー

中村

sennheiser@pjbc.co.jp

+81 345809156